伝慈覚大師

この木製の彫像は、日本の天台宗の第3代座主である円仁（別名、慈覚大師; 793または794–864）を描いています。彫像は、江戸時代（1603～1867）に作成されました。円仁は唐時代の中国への9年間の留学をしたことで知られており、847年に500冊以上の中国の仏教文学と仏具とともに日本に戻りました。850年、円仁は毛越寺と中尊寺の仏教寺院を設立し、平泉が数世紀後に藤原氏の下で繁栄する舞台を築きました。円仁は何世紀にもわたる日本の仏教の発展に影響を与えました。